



しろうさぎ

S H I R O U S A G I



ご自由にお持ち帰りください



特集 Special issue

『総合周産期母子医療センター』

インタビュー

- センター長..... 京 哲 教授
- 母体・胎児部門..... 皆本 敏子 講師
- 診療支援部門..... 明穂 一広 臨床工学技士長
- 新生児部門..... 吾郷 真子 助教

Contents

- *Professor ~どんな先生?~
- *まるわかり看護部
- *私のここだけの話
- *病院紹介
- *イベントなどのお知らせ
- *しまだい病院のキラ☆めき!

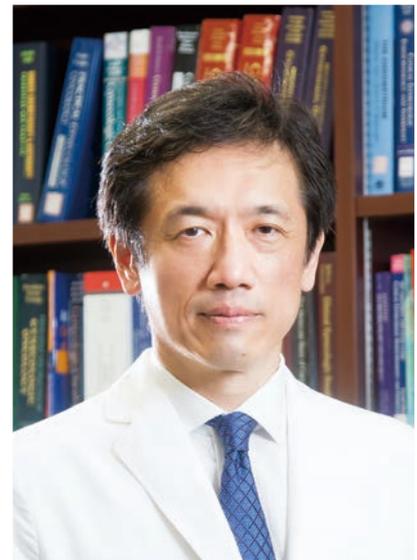
2021年4月より当院は地域周産期母子医療センターから総合周産期母子医療センターに移行しました。

当院の総合周産期母子医療センターは、母体・胎児部門及び新生児部門、不妊部門で構成されており、内科、小児外科、小児循環器外科、小児循環器内科、麻酔科、高度外傷センター、精神科をはじめとする種々の専門科と、心理部門・薬剤部門・ME部門などのコメディカル協力を得て、母体や胎児に合併症を持つ妊婦さんを妊娠前から妊娠中・産後まで、赤ちゃんを胎児期から新生児まで一貫してケアするものです。

総合周産期 母子医療センターとは？

総合周産期母子医療センター

センター長 **京** ^{きょう} **哲** ^{さとる} 教授



——周産期医療とは？

周産期とはよく耳にしますが、何でしょうか？答えは妊娠22週から生後満7日未満までの期間のことです。周産期医療とはこの期間に行う医療です。通常の医療と違うのは、母親と胎児・新生児を同時に取り扱う点です。この期間は母児共に突発的な緊急事態に陥ることがあるので、救急医療が必要です。また普段から妊娠・出産・新生児の管理に携わっている産科婦人科や小児科だけではなく、新生児（場合によっては胎児）の手術を担当する外科を含めた関連各科が協力して高度な集中治療を行う必要があるのが特徴です。

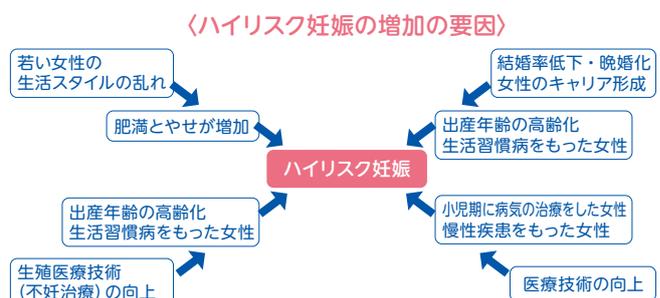
——総合周産期母子医療センターとは？

まず設備として母体・胎児集中治療室（MFICU）と新生児集中治療室（NICU）を両方備えるセンターです。また常時母児の搬送受け入れ体制を整えていることが必要です。医療内容としては、母体の救命、ハイリスク妊娠への対応、高度な新生児医療の3本柱を担える施設で、県が指定するものです。指定には一定の基準を満たす必要があります。基準は、都道府県によって異なりますが、NICU、MFICUの設置、後方病室、ドクターカーの設置や3床に1名以上の助産師または看護師の配置、さらには母体、新生児搬送システムとして地域の周産期医療情報システムを運用し、周産期医療関係者に技術習得などのために研修を行うことが定められています。

——今後の展望

島根県ではかつて産科医の不足により地域でお産できる病院が減少し、お産難民が話題となっていました。最近ではその問題は解消しています。一方、わが国は少子化の一途をたどっており、最盛期には年間250万人の出生数であったのが、最近では90万人を切っています。島根県の出生数も年々減少し、分娩数はどの病院も一律に減少していますが、母体の高齢化や生活習慣病の増加により、ハイリスク妊娠は逆に増えているのです（下図）。その結果、当院への搬送、分娩数は年々増加しており、総合周産期母子医療センターとして高レベルの周産期医療を提供することが強く求められています。

周産期医療はわが国、島根県の未来を支える大切なものであり、皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。



母体・胎児部門

みなもと としこ
皆本 敏子 講師

——母体・胎児部門ではどのような診療を行っていますか。

母体・胎児部門ではハイリスク妊娠を管理します。ハイリスク妊娠管理とは様々な疾患を抱えて妊娠される方、早産などの産科合併症、胎児病を抱えた赤ちゃんの管理です。合併症妊娠では適切な薬剤情報を患者さんだけでなく、内科主治医にもお伝えしています。難しい症例はプレグナンシーボード（合併症のある妊婦さんに関する科を超えたカンファレンス）で個別に検討会を行い、集学的に管理します。産科合併症は島根県内の搬送体制を整備し、迅速に対応しています。母体と胎児の同時管理は難しいですが、できるだけ良い状態で妊娠継続できるよう慎重に管理します。胎児疾患は倫理的・メンタル的に難しい症例も多く心理部や精神科でサポートをしつつ小児外科・小児心臓外科内科と正確な診断を心がけています。必要な場合は胎児治療を行います。



——MFICUとは？

母体・胎児集中治療室（maternal-fetal intensive care unit）の略であり、お母さんや赤ちゃんの管理が特に慎重に必要な場合に入院していただきます。ICUといってもできるだけ快適に過ごしていただける個室です。

——地域の方々・患者さんへのメッセージ

島根県医療機関の最後の砦として責任を果たしてまいります。島根周産期はオール島根で取り組みます。安心安全そしてできるだけ快適な医療を提供していくよう努力してまいりますので、どうぞご理解・ご協力をお願いいたします。

診療支援部門

MEセンター
あけほ かずひろ
明穂 一広 臨床工学技士長

多職種で連携するチーム医療

周産期医療には、医師だけでなく看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー（MSW）、公認心理師など様々な職種が携わっています。診療支援部門は、専門分野の異なるメンバーからの様々な意見をまとめ、多職種が集まってひとつのチームとして連携



できるよう調整を行う役割を担っています。

臨床工学技士は、医療機器の安全確保の担い手として、人工呼吸器、保育器、ECMO、新生児特有の医療機器などを安全に使用できるように保守点検、維持管理をしています。



新生児・小児人工呼吸器

蘇生用人工呼吸器

一酸化窒素ガス管理システム



人工呼吸器

保育器

保育器

シリンジポンプ

新生児部門

あごう まこ
吾郷 真子 助教



——新生児部門ではどのような診療を行っていますか？

従来から島根県内の小児外科等による新生児の外科的治療は当院で実施していましたが、今では早産児の受入れも増えました。以前は妊娠26週以降でしたが、総合周産期母子医療センターになり22週から受入れをしています。

また、難産の場合に多く見られる新生児仮死（泣かない赤ちゃん）や、呼吸が苦しい赤ちゃんなどの診療も行っています。

——NICU（新生児集中治療室）・GCU（新生児成長回復室）はどのような治療室ですか？

NICU・GCUは、室温26℃・湿度60%、また照明を調整して、できるだけお腹の中にいるときの状態に近づけた環境に保たれています。

小さい子ほど高温多湿な環境にするため、保育器ごとの温度・湿度調整や開放型保育器を用いて、それぞ

れの赤ちゃんに合った環境での治療を行っています。

急性期だけでなく慢性期にも対応し、NICUでは主に急性期の集中治療を、状態が安定するとGCUに移り退院に向けて準備をします。

——診療をされる上で心がけておられることはありますか？

まだ思うように意思表示ができない赤ちゃんからの小さなサインを見逃さないために、しっかりと観察することを心がけています。大きくなる経過や元気にうちへ帰っていく姿に、やりがいを感じます。



総合周産期母子医療センターへの移行に伴い、NICU・GCUの改修を行いました。クラウドファンディングにより多くの方々のご支援を賜り、NICU・GCUに面した壁もリニューアルしています。赤ちゃんやご家族に少しでも安心していただけるように、白く無機質だった壁が「温かい」空間になりました。

お花や動物たちが描かれたデザインは島根大学総合理工学部建築デザイン学科の学生によるものです。窓から見える赤ちゃんを動物たちが見守っているようにデザインされています（表紙、右図写真）



NICU
12床



GCU
9床



できるだけお腹の中にいるときの状態に近づけた環境にするため、照明が調整されています。



～どんな先生?～ Professor

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。

総合診療科をよろしくお願ひします!

総合医療学講座・総合診療科 教授 ^{まき いし} 牧石 ^{つ や} 徹也

皆さま、こんにちは。総合医療学講座・附属病院総合診療科の牧石です。昨年7月に関西地方から赴任して参りました。附属病院では総合診療医として診療し、大学では学生さんたちに総合診療医の魅力(暑く?)語っています。眼科医は目のお医者さん、では総合診療医は何の医者なのでしょう?一言で言えば「なんでも診ます」医です。総合診療医は患者さんのいろんな症状から病気を診断したりすることを得意とします。診断がつけば専門科医師へ紹介することもあります。お体のことでどの科を受診したら良いかわからないという方はぜひ、まずは総合診療科を

受診なさってください。

島根に移住して一年、本当にいいところに来たと日々感謝しながら暮らしています。海なし県(滋賀)から来ましたので、特に魚の美味しさに心奪われ、毎週末、藤増さんの鮮魚コーナーで旬の魚(1,000円以下のもの)を捌いてもらって、自宅で料理するのを楽しみにしています。

附属病院でお見かけ下さったらぜひお声がけください!



島根県の公衆衛生の向上に向けて

環境保健医学講座 教授 ^{なごし} 名越 ^{きわむ} 究

2020年8月に環境保健医学講座教授に就任しました。直接患者さんを診察することはありませんが、私たちが担当する公衆衛生は皆さんの生活と深く関わっています。

例えば、県内で医療機関を今後どれくらい確保しなければならないとか、住民の皆さんの健康づくりのために何が必要かといった事のほか、食の安全、感染症対策、障害者・高齢者・児童の福祉、職場の安全衛生などいろいろな分野が

あり、私たちは自治体や医療機関等と協力して研究・教育活動をしています。

皆さんへの情報発信も大切な仕事です。今年の2月には「ウィズ・コロナ～新型コロナウイルスがいる環境～」と題して市民公開講座を開催し、感染予防や感染した人への配慮など、日頃から気を付けておきたい事柄について知識を共有しました。これからも公開講座のご案内は病院内に掲示させていただきますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。

どうぞよろしくお願ひいたします。

まるわかり看護部

★MARUWAKARI・KANGOBU★

島根大学病院看護部は、30以上もの部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。

A病棟6階 看護師長 なかやま じゅんこ 中山 潤子

A病棟6階は、循環器内科・呼吸器内科の病棟です。循環器内科は、心不全の患者さんが多く入院されます。心不全は入院が必要な状態になるたびに病期が進行するため、医師・慢性心不全認定看護師・理学療法士等の多職種で毎週話し合いを行い、患者さんひとりひとりに合った退院後の生活や支援方法を考えています。呼吸器内科は、悪性腫瘍や慢性閉塞性肺疾患の患者さんが入院されます。化学療法や放射線療法などの治療を安心して受けられるように、苦痛症状の緩和や精神的支援に努めています。また在宅酸素療法を導入される方も多いため、生活様式の変化に応じた退院指導にも力をいれています。患者さんが退院される際には、地域包括ケアシステムの一端を担っているとい



う意識を高くもち、地域の支援者の方々に丁寧に繋いでいくことを大切にしています。

これからも、笑顔を絶やさずに患者さんの気持ちに寄り添った看護を提供できるように、みんなで頑張っていきます。

C病棟7階 看護師長 たかはし まき 高橋 真紀

当院のMCU (Mid Care Unit) は、二つの特殊機能を有する病床からなります。一つ目は、ICU (集中



治療部) / HCU (ハイケアユニット) / 救命救急センター病棟と一般病棟の中間的な役割を担っていることです。超急性期の治療が行われた後の全身管理・病状回復の支援を行っています。

二つ目は感染症対応病床を有していることです。結核などの診療支援と看護を行っています。感染対策への緊張感を持ちながら、患者さんの精神的慰安に努めています。

入棟時から退院後の生活を見据え、早期離床と日常生活動作の改善、食事調整などに力を入れています。患者さんが一日でも早く回復へ向かうよう、医師やリハビリテーションのスタッフ、退院支援職員などの多職種と連携し、日々前向きに頑張っています。



私のここだけの話

「新型コロナが教えてくれた絶景」

乳腺内分泌外科 いたくら まさゆき
診療教授 板倉 正幸

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が起こっている状況です。日本国内でも都市部を中心に感染が拡がり、各地に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、ヒトの流れの抑制により感染拡大防止が図られました。このような状況下、我が家も3人の子もたちが都会に住んでいるため実家に帰ってくることができなくなり、私と妻の二人で過ごす時間が極端に増えました。

気分転換に二人で近場をまわることも多くなり、先日快晴の日の夕方に大社の稲佐の浜へ出かけました。19時頃の日没でしたが日本海へ沈む夕陽のきれいだったこと。三

瓶山を望みながら、遠く益田の方まで山陰海岸を見渡すこともできました。今まで何度もきれいな夕陽を見てきたつもりでしたが、生まれて初めて見る様な「絶景」を地元で再発見しました。それこそ新型コロナのお蔭です。よかったら皆さんも一度見てください。

コロナの影響で人々の生活スタイルに変化が起き、予想外にリモートワークが増えているようです。これからは、地方から都会へという人の流れが大きく変化するでしょう。きっと島根の良さが再認識されるようになりそうな気がします。



病院紹介

島根SP (模擬患者) 研究会

クリニカルスキルアップセンター かりの けんじ
センター長 狩野 賢二

医療コミュニケーションの一つに「医療面接」があります。医療面接は、医師が一方通行の質問をする問診ではなく、患者さんが治療に参加するために行う、双方向性の対話によるコミュニケーションです。また、医療面接では言語的コミュニケーションだけでなく、患者さんの言葉に共感して、態度や表情に現れる非言語的コミュニケーションも重要です。しかし、医療面接のコミュニケーション力は、習ってできるものではありません。実際に患者さんと会話しながら身につけます。そのため、予め設定されたシナリオに基づいて仮定の症状を訴える「模擬患者」さんに、実際の

診察のように医学生の手をさせて頂きます。特に、医学生が病院実習に出る前と卒業前に行う実技試験には、模擬患者さんのご協力が必要です。そこで、クリニカルスキルアップセンターで、毎月、島根模擬患者研究会を開催しています。皆さまのご参加をお待ちしています。



イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、毎週木曜日11時00分～院内ロビーで開催しております「ちょっと気になる健康講座」を当面の間休止しております。休止期間中は動画でお楽しみください。

島大病院 ちょっと気になる健康講座

Shimane University Hospital Lectures on Health



お手持ちの携帯電話・スマートフォンからご覧いただけます。

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

2021年7月放送予定

小児科 教授 竹谷 健

放送内容：「総合周産期母子医療センター NICU/GCUがリニューアルしました」



書籍紹介

Shimane University Hospital

島大病院が本気で考えたレシピ

Special Recipe Book

保存版 100

島根大学医学部附属病院

「おいしい」という喜びには、計り知れない力がある。からだにやさしい、こころもおいしく満たされるレシピを集めました。



AB判//96ページ/オールカラー 定価 1,650円
ISBN 978-4-86611-230-5 発売：今井出版 (本体1,500円+税10%)

※内容は変更になる場合があります。

島根大学医学部附属病院で入院患者さんに提供している病院食の中から厳選した100のレシピをご紹介します

しまだい病院の キラ☆めき!



島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。

皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 初期研修医 こばやし ゆきの 小林 雪乃

はじめまして。初期研修医1年目の小林雪乃です。初期研修医として様々な診療科で勉強をさせて頂いています。研修医としてスタートして早くも3ヶ月が過ぎました。1日1日が目まぐるしく充実した日々を送っています。多くの先生方に支えられながらではありますが、焦らず1つ1つ成長していきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひ致します。

手術部・麻酔科外来 看護師 いま おか あゆみ 今岡 歩

手術部に配属されて2年目になりました。手術部では患者さんが安心して手術を受けられるよう医師などと情報共有しながら、看護を行っています。

私は術前訪問で実際に患者さんにお会いし、手術に対して大きな不安を感じておられる患者さんが多いと感じました。患者さんの気持ちを聞くこと、入室してから麻酔で眠られるまでは何をするのか、眠られてからは何をしているのかなど、手術当日の流れがイメージできるように説明することで患者さんの不安が少しでも軽減できるよう心がけています。

疾患や術式、麻酔などまだまだ覚えることはたくさんありますが、日々勉強を重ねて、患者さんの気持ちに寄り添える手術室看護師を目指したいです。



医療サービス課 医師クラーク いとう さとみ えんどう ゆか なりあい ゆか 伊藤 里美・遠藤 由香・成相 優佳

2016年の診療報酬改定により特定機能病院での医師事務作業補助体制加算の算定が認められて以降、当初は10名でスタートした私たち医師事務作業補助者(当院呼称・医師クラーク)も現在は37名となりました。

医師が今まで行っていた事務業務の負担を軽減し、診察や手術に時間を充てることによって、医療の質の向上を目的として、この「医師事務作業補助者」が誕生しました。

医師が診療により一層集中でき、患者さんの安心に繋がるようにと日々業務を行っています。今後も一人一人が専門的な知識を身につけ、スキルアップに向けて努力していきます。

編集後記

今回は、今年4月から稼働を開始した総合周産期母子医療センターを特集しました。島根県の周産期医療の「最後の砦」として、様々な診療科、部門のスタッフが連携して、お母さんと赤ちゃんの健康を支えています。

表紙や誌面でも紹介しましたが、NICU・GCUに面した廊下がとても温かな空間にリニューアルされています。ちなみに、私は表紙に掲載している、くじらの絵が好きです。

次号は、10月発行予定です。



【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます！)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

